

「ちばレポ」が実現する街と市民のインタラクション

本田正美^{†1} 中野邦彦^{†1}

2014年からは、千葉県千葉市において、地域課題の解決プラットフォームとして「ちばレポ」が運用されている。「ちばレポ」に登録した市民は、街の課題などをスマートフォンアプリを介して市に通報することが出来るのである。本研究では、「ちばレポ」について公開されている利用状況に関するデータを用いて、「ちばレポ」が実現する街と市民のインタラクションについて考察する。

Interaction between city and citizen that 'Chiba-repo' realizes

Masami HONDA^{†1} Kunihiro NAKANO^{†1}

"Chiba-repo" is managed as a solution platform for local problem in Chiba City, Chiba prefecture since 2014. Citizens who have registered in "Chiba-repo" can report the problems of the town to the city through smartphone application. In this study, we consider the interaction between the city and the citizen realized by "Chiba-repo" by using the data on the usage situation published about "Chiba-repo".

1. はじめに

2014年8月から、千葉県千葉市において、地域課題の解決プラットフォームとして「ちばレポ」が運用されている。「ちばレポ」に登録した市民は、街の課題などについてスマートフォンアプリを介して市役所に通報することが出来るのである。また、「ちばレポ」のWebサイトでは、通報された事項と対応状況などが公開されている。

本研究では、「ちばレポ」について公開されている利用状況に関するデータを用いて、「ちばレポ」が実現する街と市民のインタラクションについて考察する。

2. 「ちばレポ」登場の背景

「ちばレポ」はオープンガバメントの取り組みとして位置付けられている。

オープンガバメントは、2009年に大統領に就任したオバマが就任直後に署名した覚書において、その推進を謳っていた取り組みである。オープンガバメントとは、透明性(transparenty)・参加(participation)・連携(collaboration)の三原則を満たす取り組みを指している。

千葉市は、2013年には、武雄市・奈良市・福岡市と「ビッグデータ・オープンデータ活用推進協議会」を立ち上げるなど、オープンデータに着目して、自治体間の連携を図っていた。ここで、オープンデータという用語が登場したが、オープンナレッジファンデーションジャパンの定義によれば、オープンデータとは、「目的を問わず、誰でもどこでも自由に利用し、共有し、構築のベースにすることができるデータ」[1]である。オバマが推進したオープンガバメントの取り組みの具体的な施策のひとつがオープンデ

ータの推進である。アメリカ連邦政府におけるデータを中心として、それを公開するデータカタログサイト「Data.gov」が開設されている。

「ちばレポ」については、2016年3月に、登録者やレポート(通報)の内容に関するデータがオープンデータとして公開されている。ただし、「ちばレポ」はオープンデータの取り組みというよりはオープンガバメントの取り組みとする方が妥当であり、透明性の向上に留まらず、市民の参加を促進し、市役所と市民や企業の連携を実現する取り組みである。

図1は、「ちばレポ」Webサイトのトップページであり、ここから各種の情報提供がなされている。

図1 「ちばレポ」Webサイトトップページ



^{†1} 島根大学 Shimane University

(出所: <https://chibarepo.secure.force.com/>)

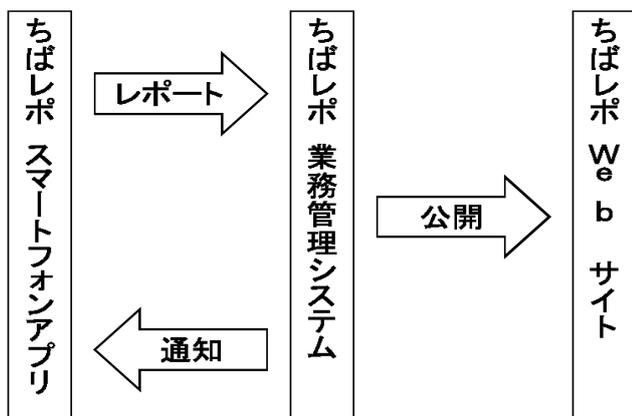
3. 「ちばレポ」の概要

「ちばレポ」は行政の提供するアプリケーションである。その概要については、以下のように説明されている。

「千葉市内で起きている様々な課題(たとえば道路が傷んでいる、公園の遊具が壊れているといった、地域での困った課題、これらを「ちばレポ」では「地域での課題」といいます。)を、ICT(情報通信技術)を使って、市民がレポートすることで、市民と市役所(行政)、市民と市民の間で、それらの課題を共有し、合理的、効率的に解決することを目指す仕組みです。」¹

「ちばレポ」のシステム構成は、スマートフォンアプリ・業務管理システム・Web サイトから成る(図2)。ちばレポ業務管理システムの部分は、Salesforce.com の提供する統合 CRM が採用されている。つまり、ちばレポスマートフォンアプリから市内の課題がレポートされると、それが千葉市役所の担当者に通知される。そして、行政が何らかの対応を図った場合、その対応状況などがレポート者に通知されるのである。

図2 「ちばレポのシステム構成」



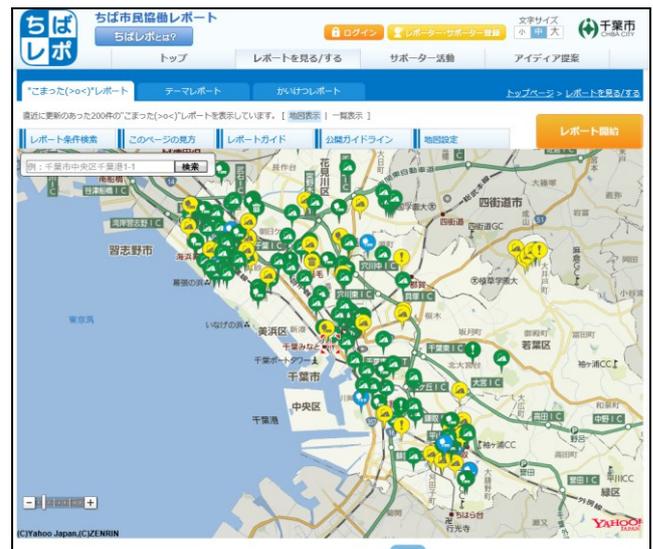
(出所：作成筆者)

それらのレポートや対応状況などの情報は整理されて、ちばレポ Web サイトにおいて公開されている。よって、レポートを行った登録者以外も、Web サイトを介して対応状況などを確認することが出来るのである。

具体的には、図3にあるように、千葉市内の地図が表示され、その中にレポートがあった場所にピンが打たれている。それぞれのピンをクリックすると、その場所に関してなされたレポートの内容と対応状況を確認することが出来るようになっている。なお、ピンは対応状況に応じて色分けされている。

¹ 引用は以下より行った。
<https://www.city.chiba.jp/shimin/shimin/kohokocho/chibarepo.html>
 最終アクセス 2017 年 2 月 10 日

図3 「レポートを見る/する」ページ



(出所：

https://chibarepo.secure.force.com/CBC_VF_WebReportMap/)

4. 「ちばレポ」の登録者

「ちばレポ」は、2014 年 8 月にスマートフォンアプリがリリースされ、その運用が開始された。以降、2016 年 2 月末までの 3615 人の参加登録者の登録日時が秒単位でオープンデータとして公開されている²。この登録者のデータについては、[2]において整理し、その傾向について議論したところである。以下の表1・表2・表3は、そこでも用いたものである。

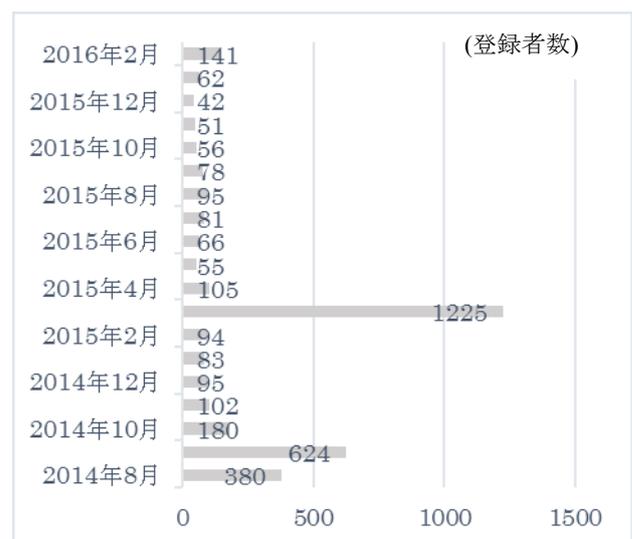


表1 ちばレポ月別登録者数

月別の登録者数を見ると、運用開始直後を除くと、2015

² https://www.city.chiba.jp/shimin/shimin/kohokocho/chibarepo_opendata.html
 最終アクセス 2017 年 2 月 10 日

年3月が突出して多い。これは、同月16日午前7時45分から8時のNHK総合「NHKニュース おはよう日本（関東甲信越のニュース）」で「ちばレポ」が取り上げられたことに起因していると考えられる。以降は、100人を切るあたりで毎月安定して新規の登録がある。

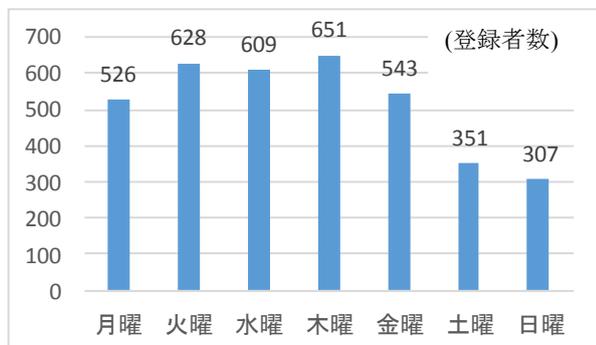


表2 ちばレポ曜日別登録者数

曜日別の登録者数を集計したのが表2である。土曜日と日曜日の登録者が少ない。

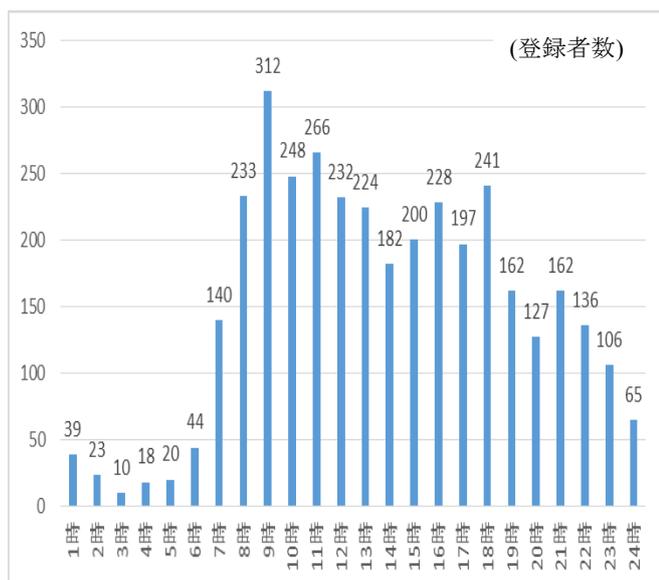


表3 ちばレポ時間帯別登録者数

1時間ごとの登録者数の総計を表にしたものが表3である。これを見ると、午前1時から6時の登録者が少ないことが明らかとなる。22時から登録者数が低下し始め、早朝まで、その登録者数は低調な状態で推移するのである。

登録者数の総数は3615人であり、これは千葉市の人口約97万人と比較した時に決して大きなものではないが、少なくともこの人数については、行政の提供するアプリケーションを用いて街とのインタラクションを図ることが可能となっているのである。

5. 企業との連携

「ちばレポ」は企業などの組織との連携協力を図っている。具体的には、以下のように表明されている。

「ちばレポでは、企業などのCSR活動の一環として「ちばレポ」を通じて地域課題の発見や解決にご協力いただける企業や団体と、連携協力に関する覚書を締結しています。」³

実際に協定を結んでいる事業所等は、JFEスチール株式会社など15ある。協力内容は、以下のように四項目が示されている⁴。

1. ちばレポにおける従業員等のレポーター・サポーター登録の促進に関すること
2. ちばレポにおけるレポートに関すること
3. ちばレポにおける事業所や店舗周辺の課題解決に関すること
4. ちばレポの普及促進に関すること

企業などと連携を図ったことによる劇的な効果は見受けられないが、このようなアプリケーションの登場を契機として、企業と行政が地域の課題解決のために共に活動する基盤が形成されたものと考えられる。

6. 「ちばレポグランプリ」によるインタラクション

2015年初からは、月間レポート件数とサポーター活動の参加回数を基にポイント付与し、そのランキングを発表する「ちばレポグランプリ」という取り組みが実施されている⁵。これは、個人戦と区単位のチーム戦が実施されている。なお、サポーター活動とは、「ちばレポ」を介してレポートされた地域の課題を市民と行政が協力しながら解決にあたる活動であり、落書き消しや落ち葉拾いなどが実施されている。

「ちばレポグランプリ」については、「ちばレポ」のWebサイト上で獲得ポイントに応じたランキングが公開されている。これにより、登録者には毎月レポートなどを行うことを促しているのである。

「ちばレポグランプリ2016」の最終結果によると、レポートしたレポーターが924人、レポート件数が3520件となっている。個人のトップは、緑区在住でニックネーム nob

³ <http://www.city.chiba.jp/shimin/shimin/kohokocho/nckrigyourenkei.html>
 最終アクセス 2017年2月10日

⁴ <http://www.city.chiba.jp/shimin/shimin/kohokocho/nckrigyourenkei.html>
 最終アクセス 2017年2月10日

⁵ 詳細は、以下のサイトを参照した。
http://www.city.chiba.jp/shimin/shimin/kohokocho/chibarepo_grandprix_rule.html
 最終アクセス 2017年2月10日

のポイント 250、総レポート件数 380 件である。チーム戦でも、緑区が総ポイント 709 でトップであった⁶。

個人とグループでそれぞれ六つある千葉市内の区からの参加者があるが、一方で、市外からの参加もあり、「ちばレポ」が千葉市民に利用が限定されたアプリケーションではないことも確認される。ただし、千葉市内で地域の課題を発見してレポートするというアプリケーションである以上、市外の参加者であっても千葉市内で街とインタラクションが生起していたことが想定される。

7. 「テーマレポート」によるインタラクション

「ちばレポグランプリ」の他に、「テーマレポート」という取り組みも展開されている。これは、市側が用意したテーマにつき、登録者からのレポートを募る試みである。

2016 年 7 月には、テーマレポート「カーブミラーのさびを点検しよう！」が実施された。千葉市内には、約 7000 基のカーブミラーが設置されており、その根元の点検を「ちばレポ」を活用して行うというものである⁷。

2016 年 8 月には、テーマレポート「ちばの魅力あふれる都市景観をレポートしよう！～千葉市都市文化賞 2016 連動企画」が実施された⁸。これは、2016 年 7 月 1 日から 8 月 31 日まで開催された千葉都市文化賞 2016 と連動するかたちで、千葉市内にあるお勧めの都市景観をレポートするというものである。この事例にもあるように、「ちばレポ」は、地域の課題だけではなく、魅力をレポートすることにも活用され得るのである。

2016 年 9 月には、テーマレポート「千葉市のおすすすめスポット&説明文をレポートしよう！」が実施された⁹。これは、「外部からのミッション」という位置付けで実施されたものであり、アーバンデータチャレンジ 2016 千葉ブロックの主催団体「オープン！ちば」からの依頼を受けて、市内にある史跡、彫刻・モニュメントなどのお勧めスポットをレポートするという企画である。なお、その企画趣旨には、「7 月末にリリースされた位置情報ゲーム「ポケモン GO」を契機に、多くの人々が街を歩き・街を見直す動きが出てきたことは歓迎すべきことです」¹⁰という文章が見出される。まさに、「ちばレポ」も、アプリケーションの提供

⁶ ランキングについては、以下を参照した。
http://www.city.chiba.jp/shimin/shimin/kohokocho/chibarepo_grandprix_record_2016.html 最終アクセス 2017 年 2 月 10 日

⁷ カーブミラーに関するテーマレポートについては、以下を参照した。
https://chibarepo.secure.force.com/CBC_VF_WebNoticeDetail?c=NEWS&newsNo=17744 最終アクセス 2017 年 2 月 10 日

⁸ ちばの魅力あふれる都市景観をレポートしように関するテーマレポートについては、以下を参照した。
https://chibarepo.secure.force.com/CBC_VF_WebNoticeDetail?c=NEWS&newsNo=17968 最終アクセス 2017 年 2 月 10 日

⁹ 以下を参照した。
https://chibarepo.secure.force.com/CBC_VF_WebNoticeDetail?c=NEWS&newsNo=18084 最終アクセス 2017 年 2 月 10 日

¹⁰ 引用は以下より行った。
https://chibarepo.secure.force.com/CBC_VF_WebNoticeDetail?c=NEWS&newsNo=18084 最終アクセス 2017 年 2 月 10 日

によって、人々が街を歩き、街を見直す契機を作ったのであり、そこに街と市民のインタラクションを喚起したのである。

通常は、「ちばレポ」を用いて、随時発見した課題などをレポートするということが行われるが、このテーマレポートの場合には、テーマが設定され、それに基づくインタラクションの生起が促進されることになる。

8. おわりに

本研究では、「ちばレポ」について公開されている利用状況に関するデータを用いながら、「ちばレポ」を介して実現される街と市民のインタラクションについて考察した。

「ちばレポ」というスマートフォンアプリが提供されることによって、主に千葉市民が自らの地域の課題を発見してレポートしたり、地域の魅力やお勧めスポットをレポートしたりということが行われ、そこで街と市民のインタラクションが生起していたものと考えられる。

2017 年 1 月から、「ちばレポ」について、東京大学生産技術研究所・関本研究室を主体に他の自治体や民間事業者なども参画し、「次世代ちばレポ“MyCityReport”実証実験」を開始した。

「この実証実験は、「ちばレポ」をベースにしつつもさらに機械学習、IoT や最適資源配分等の機能を組み込んだオープンソースベースの次世代型の市民協働プラットフォームを開発し、全国の地方自治体に展開を目指す“MyCityReport”の開発・実証を、自治体の関係部署や住民の参画により行っていくものです。」¹¹

以上のように実証実験の趣旨が記されている。現在は、「ちばレポ」を介して、主に千葉市内で街と市民のインタラクションが生起しているが、これが全国に展開していくことも構想されているのである。

「ちばレポ」は、オープンガバメントの取り組みとして位置付けられているが、街と市民のインタラクションを喚起するという意味では、街と市民の間の回路を「オープン」するものとしても位置付けられると考えられる。

参考文献

- 1 オープン・ナレッジ・ファウンデーション・ジャパン：オープンデータを定義する(<http://okfn.jp/2014/03/23/defining-open-data/>)、最終アクセス 2017 年 2 月 3 日(その他の URL も同様)、(2014)
- 2 本田正美・中野邦彦：「ちばレポ」に見られる行政と市民の情報コミュニケーション、情報コミュニケーション学会研究報告、Vol.13、No.1、pp.16-19、(2016)

¹¹ 引用は以下より行った。
https://chibarepo.secure.force.com/CBC_VF_WebNoticeDetail?c=NEWS&newsNo=18537 最終アクセス 2017 年 2 月 10 日